

癌化学療法プロトコール用紙

2008.10.30

プロトコール名 カポジ肉腫-1 ドキシル
対象疾患 エイズ関連カポジ肉腫
臨床試験登録 なし ありPI, PII, PIII, PIV
診療科 原医研内科
登録日・登録者 平成20年10月30日

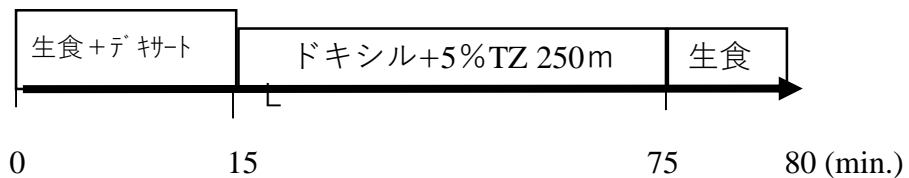
嘔気・嘔吐リスク

低

a) 投与薬剤名と投与量、投与方法

薬剤名	量	投与方法
薬剤1	生食 100 mL + テキサート 6.6 mg	15分かけて点滴
薬剤2	ドキシル 20 mg/m ² + 5%ブドウ糖 250 mL	60分かけて点滴
薬剤3	生食 100 mL	全開で点滴

b) 投与方法の図式



c) 投与スケジュール

2~3週毎投薬

d) 投与スケジュールの図式



癌化学療法プロトコール用紙

2009. 4. 15

プロトコール名
対象疾患
臨床試験登録
診療科
登録日

軟部-2 IFO(4日間), ADR(2日間)
軟部悪性腫瘍
なし ありPI, PII, PIII, PIV
整形外科
平成21年4月15日

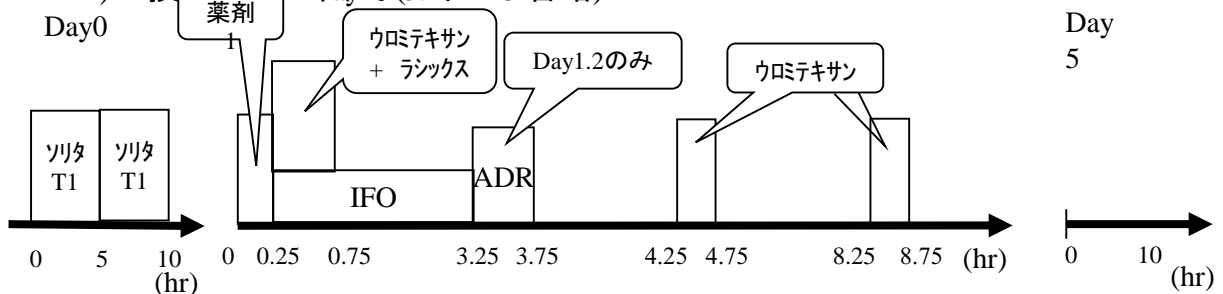
嘔気・嘔吐リスク

高

a) 投与薬剤名と投与量, 投与方法

メイン (Day0)	ソリタT1 1000mL	10時間かけて点滴 (Day0はメインのみ)
メイン (Day1)	ソリタT1 500mL + ソルデム3A 2000mL + メイロン80mL	24時間かけて点滴
メイン (Day2,3,4)	ソルデム3A 2500mL + メイロン100mL	24時間かけて点滴
メイン (Day5)	ソルデム3A 1000mL + メイロン40mL	10時間かけて点滴
薬剤1 (Day1,2,3,4)	グラニセロンパック(3mg)100mL + テキサト6.6mg + ファモチジン20mg	15分かけて点滴
薬剤2 (Day1,2,3,4)	生食 500mL + IFO 2.8g/m ²	3時間かけて点滴
薬剤3 (Day1,2,3,4)	生食 100mL + ウロミテキサン 1.6g + ラシックス 1A	30分かけて点滴
薬剤4 (Day1,2のみ)	生食 100mL + ADR 25mg/m ²	30分かけて点滴
薬剤5 (Day1,2,3,4)	生食 100mL + ウロミテキサン 1.2g	30分かけて点滴
薬剤6 (Day1,2,3,4)	生食 100mL + ウロミテキサン 1.2g	30分かけて点滴
薬剤7 (Day5)	ファモチジン20mg + 生食20mL	ゆっくり静注

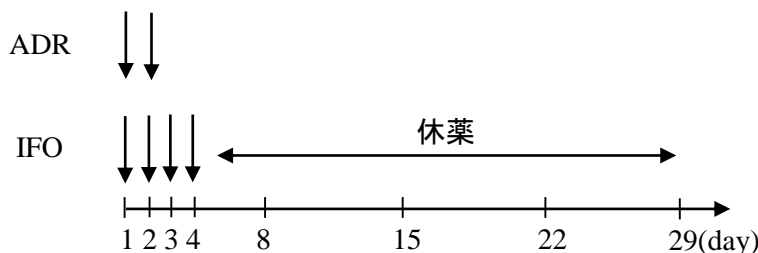
b) 投与薬剤の図式(メインは省略)



c) 投与スケジュール

ADR 2日間, IFO 4日間
4週毎投薬、1クール4週

d) 投与スケジュールの図式



★注意

- ・day5,6,7に悪心継続時には『生食 100mL + テキサト 6.6mg 15分かけて点滴』を朝に施行
- ・前クール時に悪心嘔吐発現時には、次クールより『テキサト 9.9mg』へ増量する

プロトコール名
対象疾患
臨床試験登録
診療科
登録日

軟部-3 (入院) IFM+EPI
軟部悪性腫瘍
なし ありPI, PII, PIII, PIV
臨床腫瘍科
平成19年3月29日

嘔気・嘔吐リスク
高 (Day1,2)
中 (Day3~5)

a) 投与薬剤名と投与量、投与方法
(Day1,2)

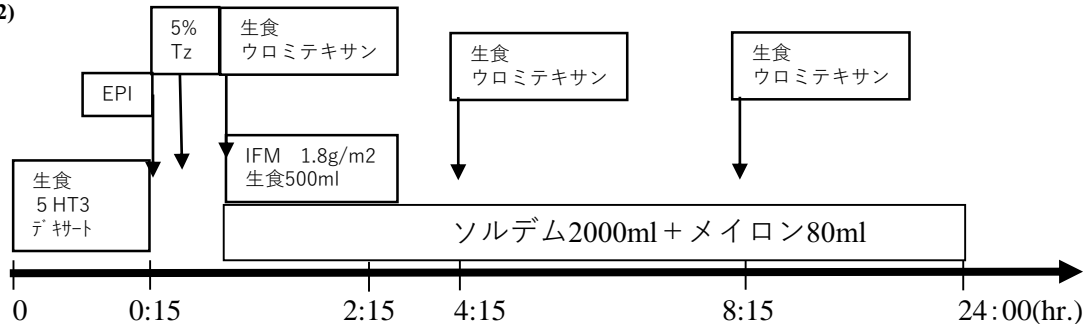
- 薬剤1 生食 100 ml + デキサト 16.5mg + 5HT3受容体拮抗薬1A 1 5分かけて点滴
 薬剤2 ファルモルピシンRTU 60mg/m2 薬剤1の空ボトルに入れ5分で点滴
 薬剤3 5%ブドウ糖100ml 全開で投与
 薬剤4 ソルデム3号2000ml + メイロン80ml 24時間かけて点滴 (薬剤1,2,3投与時はロックすること)
 薬剤5 生食 100ml + ウロミテキサン(360mg/m2) 側管より全開で投与
 薬剤6 生食 500ml + イホマイド1.8g/m2 2時間かけて点滴
 薬剤7 生食 100ml + ウロミテキサン(360mg/m2) 薬剤5の投与4時間後に側管より全開で投与
 薬剤8 生食 100ml + ウロミテキサン(360mg/m2) 薬剤5の投与8時間後に側管より全開で投与

(Day3-5)

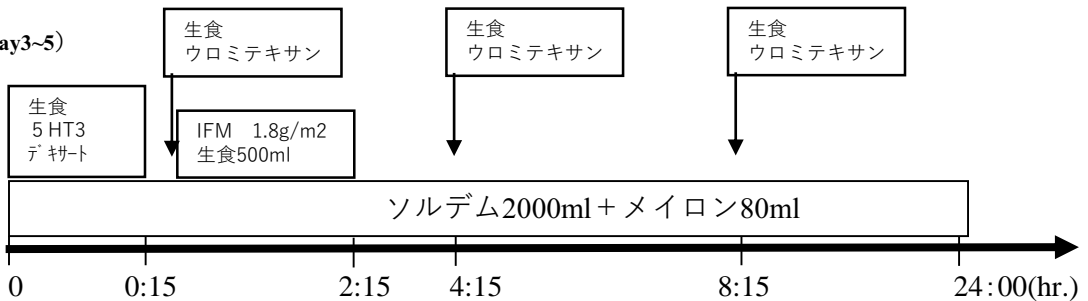
- 薬剤1 生食 100 ml + デキサト 6.6mg + 5HT3受容体拮抗薬1A 1 5分かけて点滴
 薬剤2 ソルデム3号2000ml + メイロン80ml 24時間かけて点滴
 薬剤3 生食 100ml + ウロミテキサン(360mg/m2) 側管より全開で投与
 薬剤4 生食 500ml + イホマイド1.8g/m2 2時間かけて点滴
 薬剤5 生食 100ml + ウロミテキサン(360mg/m2) 薬剤3の投与4時間後に側管より全開で投与
 薬剤6 生食 100ml + ウロミテキサン(360mg/m2) 薬剤3の投与8時間後に側管より全開で投与

b) 投与方法の図式

(Day1,2)



(Day3-5)

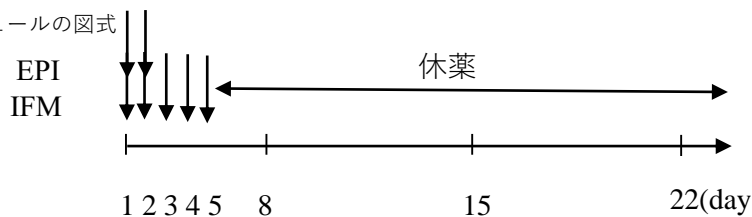


投与中は一日尿量3000ml以上を確保すること

c) 投与スケジュール

3週毎投薬、1クール3週

d) 投与スケジュールの図式



プロトコール名 軟部-4 (入院) IFM+DXR
 対象疾患 軟部悪性腫瘍
 臨床試験登録 なし ありPI, PII, PIII, PIV
 診療科 臨床腫瘍科
 登録日 平成19年8月7日

嘔気・嘔吐リスク
高 (Day1,2)
中 (Day3~5)

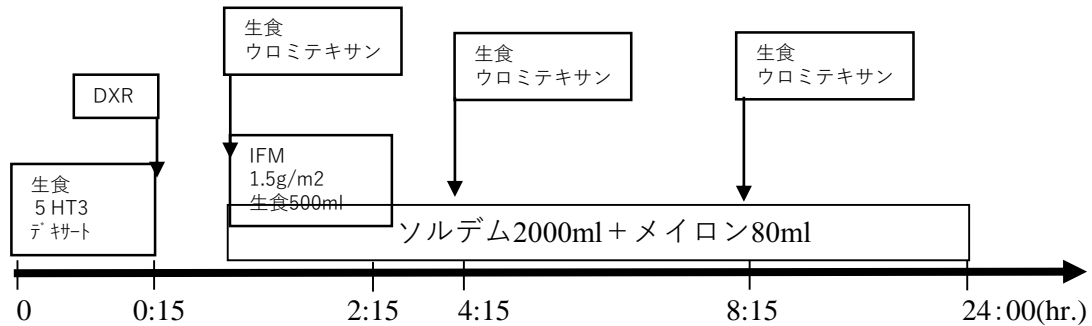
a) 投与薬剤名と投与量、投与方法
(Day1,2)

- 薬剤1 生食 100 ml + デキサト 16.5mg + 5HT3受容体拮抗薬1A 1 5分かけて点滴
- 薬剤2 アドリアシ 30mg/m² + 生食20ml 側管より全開で投与
- 薬剤4 ソルデム3号2000ml + メイロン80ml 24時間かけて点滴 (薬剤1,2,3投与時はロックすること)
- 薬剤5 生食 100ml + ウロミテキサン(300mg/m²) 側管より全開で投与
- 薬剤6 生食 500ml + イホマイド1.5g/m² 2時間かけて点滴
- 薬剤7 生食 100ml + ウロミテキサン(300mg/m²) 薬剤5の投与4時間後に側管より全開で投与
- 薬剤8 生食 100ml + ウロミテキサン(300mg/m²) 薬剤5の投与8時間後に側管より全開で投与

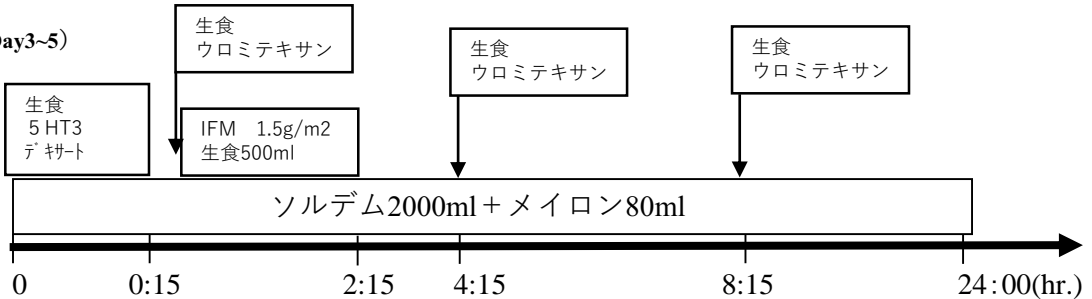
(Day3~5)

- 薬剤1 生食 100 ml + デキサト 6.6mg + 5HT3受容体拮抗薬1A 1 5分かけて点滴
- 薬剤2 ソルデム3号2000ml + メイロン80ml 24時間かけて点滴
- 薬剤3 生食 100ml + ウロミテキサン(300mg/m²) 側管より全開で投与
- 薬剤4 生食 500ml + イホマイド1.5g/m² 2時間かけて点滴
- 薬剤5 生食 100ml + ウロミテキサン(300mg/m²) 薬剤3の投与4時間後に側管より全開で投与
- 薬剤6 生食 100ml + ウロミテキサン(300mg/m²) 薬剤3の投与8時間後に側管より全開で投与

b) 投与方法の図式
(Day1,2)



(Day3~5)

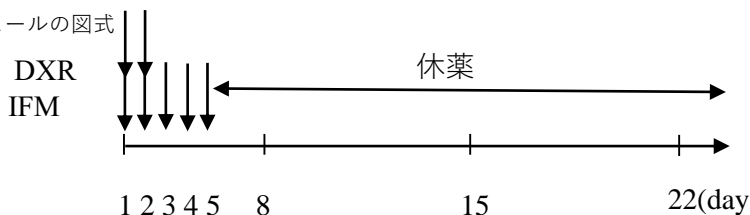


c) 投与スケジュール

3週毎投薬、1クール3週

投与中は一日尿量3000ml以上を確保すること

d) 投与スケジュールの図式



癌化学療法プロトコール用紙

2009. 6. 20

プロトコール名 軟部-5 CDDP(1日間), ADR(2日間)
 対象疾患 悪性骨肉腫
 臨床試験登録 なし ありPI, PII, PIII, PIV
 診療科 整形外科
 登録日 平成21年5月21日
 平成23年4月7日 改訂

嘔気・嘔吐リスク

高 (Day2)

a) 投与薬剤名と投与量, 投与方法

メイン (Day1) ソリタT1 1000mL 10時間かけて点滴

Day2、アプレクタ1 25mg Day3・4、アプレクタ80mg 内服

メイン1 (Day2.3.4.5) ソルアセトF 1500mL メインルート 10時間かけて点滴

メイン2 (Day2.3.4.5) ソルデム3A 1000mL メインルート 9時間かけて点滴

薬剤1 アロキシ1A + デキサート 8.25mg + ファモチジン20mg 15分かけて点滴

薬剤1' デキサート 4.95mg + ファモチジン20mg 15分かけて点滴

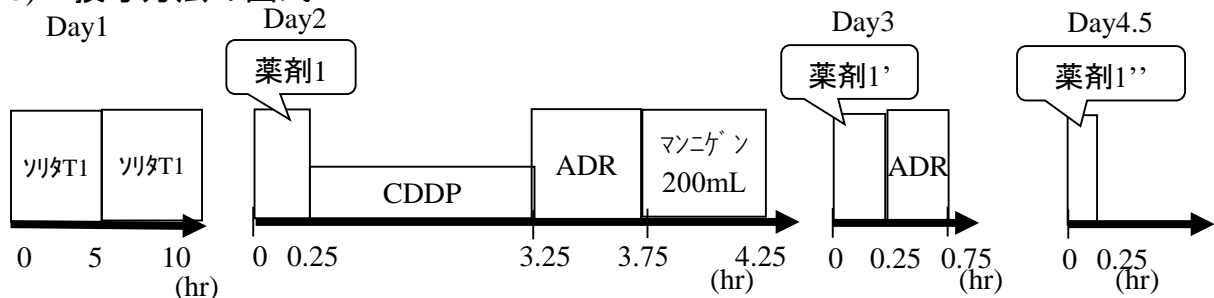
薬剤1'' 生食 100mL + デキサート 4.95mg (Day5はデキサート9.9mg) + ファモチジン20mg 15分かけて点滴

薬剤2 生食 800mL + CDDP 120mg/m² total 800mL 3時間かけて点滴

薬剤3 生食 100mL + ADR 25mg/m² 30分かけて点滴

薬剤4 マンニゲン 200mL 30分かけて点滴

b) 投与方法の図式

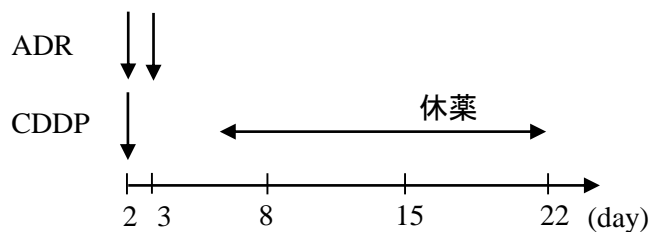


c) 投与スケジュール

ADR 2日間, CDDP 1日間

3週毎投薬、1クール3週

d) 投与スケジュールの図式



★注意

・day6,7,8に悪心継続時には薬剤1'を朝に施行

プロトコール名 軟部-007 ヨンデリス
 対象疾患 悪性軟部腫瘍
 臨床試験登録 なし あり PI, PII, PIII, PIV
 診療科 がん化学療法科
 登録日 2016.1.21

嘔気・嘔吐リスク

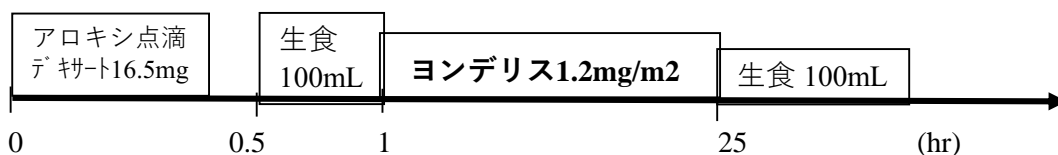
中

a) 投与薬剤名と投与量、投与方法

薬剤名	量	投与方法
薬剤1	アロキシ点滴 デキサト16.5mg	30分で点滴
薬剤2	生食	100mL 30分で点滴
薬剤3	ヨンデリス1.2mg/m ²	生食1000mLに混注し、中心静脈より24時間で点滴
薬剤4	生食	100mL 全開で

主代謝がCYP3Aであるため、CYP3A阻害剤アプレピタント(アプレピタント)は使用しない

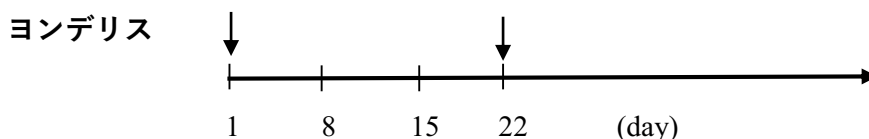
b) 投与方法の図式



c) 投与スケジュール

3週間間隔

d) 投与スケジュールの図式



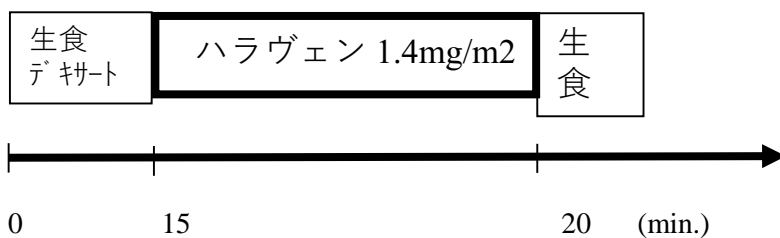
プロトコール名	軟部-008 ハラヴェン
対象疾患	悪性軟部腫瘍
臨床試験登録	(なし) あり P1, P2, P3, P4
診療科	がん化学療法科
登録日	2016.03.10

嘔気・嘔吐リスク
低

a) 投与薬剤名と投与量、投与方法

	薬剤名	量	投与方法
薬剤1	デキスト	6.6mg + 生食100ml	15分
薬剤2	ハラヴェン	1.4mg/m ²	生食50mlに混注し2~5分で点滴
薬剤3	生食	100ml	全開で投与

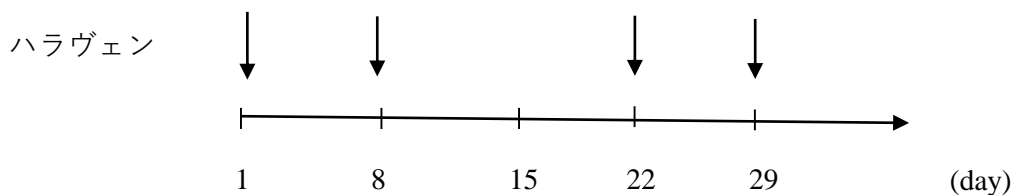
b) 投与方法の図式



c) 投与スケジュール

ハラヴェンはday1, 8 1クール3週

d) 投与スケジュールの図式



癌化学療法プロトコール用紙 2011.3.17

プロトコール名 肉腫-1 VDC
 対象疾患 Ewing肉腫
 臨床試験登録 なし ありPI, PII, PIII, PIV
 診療科 呼吸器内科
 登録日 平成23年3月17日

嘔気・嘔吐リスク
高

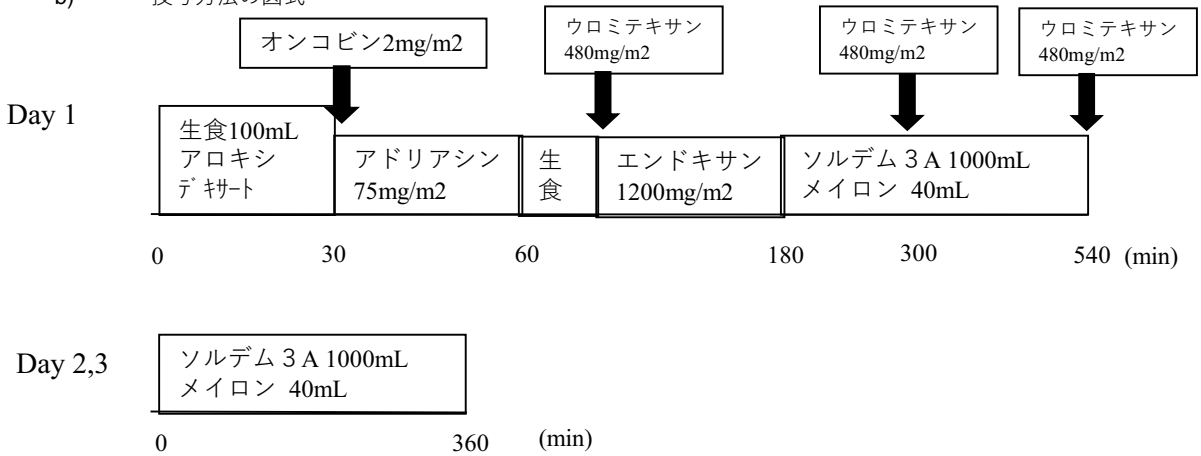
a) 投与薬剤名と投与量、投与方法
(Day1) アブレタント125mg 1Cap 服用

- 薬剤1 生食 100 ml + デキスト 8.25mg + アロキシ1A 30分かけて点滴
- 薬剤2 オンコビン 2mg/m² (最大量 2mg) を生食20mLで溶解しゆっくりとiv
- 薬剤3 アドリアシン 75 mg/m²を生食100mLに溶解し30分で点滴
- 薬剤4 生食100mL 全開で
- 薬剤5 エンドキサン 1200 mg/m²を生食500mLに溶解し2時間で点滴
- 薬剤6 ウロミテキサン 480mg/m²+生食100mL 側管よりエンドキサンと同時に30分かけて点滴
- 薬剤7 ソルデム3A 1000ml + メイロン40mL 6時間かけて点滴
- 薬剤8 ウロミテキサン480mg/m²+生食100mL 薬剤6ウロミテキサンの投与4時間後に側管より30分かけて点滴
- 薬剤9 ウロミテキサン480mg/m²+生食100mL 薬剤6ウロミテキサンの投与8時間後に側管より30分かけて点滴

(Day2, 3) アブレタント80mg 1Cap 服用

薬剤1 ソルデム3A 1000ml + メイロン40ml 6時間かけて点滴

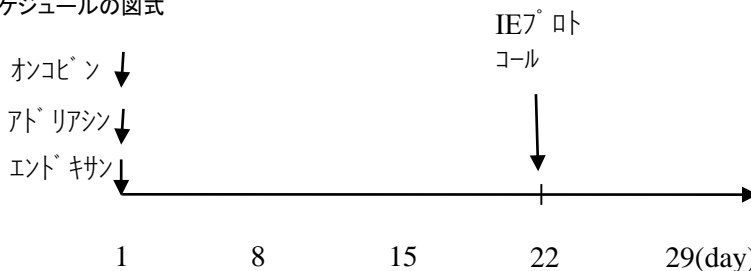
b) 投与方法の図式



c) 投与スケジュール

3週毎投与。IE プロトコールと交互に投与

d) 投与スケジュールの図式



癌化学療法プロトコール用紙

2011.3.28

プロトコール名 肉腫-2 IE7 プロトコール
 対象疾患 Ewing肉腫
 臨床試験登録 なし
 診療科 呼吸器内科
 登録日 平成23年3月28日

嘔気・嘔吐リスク

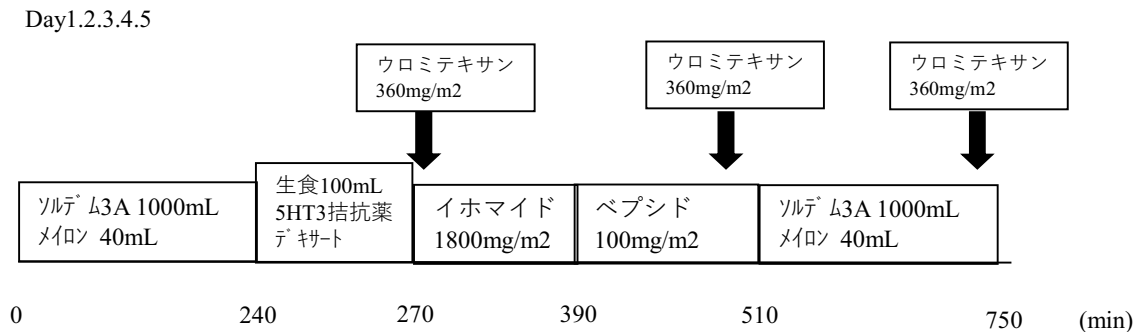
高

a) 投与薬剤名と投与量、投与方法

Day1 アブレンタム (125) Day2~5 アブレンタム(80)

- 薬剤1 ソルデム3A 1000ml+メイロン40mL 4時間かけて点滴
- 薬剤2 5HT3受容体拮抗薬 100 ml+デキサート 8.25mg 30分かけて点滴
- 薬剤3 イホマイド1800mg/m2を生食500mLに溶解し2時間で点滴
- 薬剤4 ウロミテキサン 360mg/m2+生食100mL 側管よりイホマイドと同時に30分かけて点滴
- 薬剤5 ペプシド100mg/m2を生食500mLに溶解し2時間で点滴
- 薬剤6 ソルデム3A 1000ml+メイロン40mL 4時間かけて点滴
- 薬剤7 ウロミテキサン360mg/m2+生食100mL 薬剤4ウロミテキサンの投与4時間後に側管より30分かけて点滴
- 薬剤8 ウロミテキサン360mg/m2+生食100mL 薬剤4ウロミテキサンの投与8時間後に側管より30分かけて点滴

b) 投与方法の図式



c) 投与スケジュール

3週間で1クール。VDCプロトコールと交互に投与

d) 投与スケジュールの図式

day	1	2	3	4	5
イホマイド(IFO) 1800mg/m2/day 2h div	●	●	●	●	●
ペプシド(VP16) 100mg/m2/day 2h div	●	●	●	●	●

癌化学療法プロトコール用紙

2015.3.31

プロトコール名: **肉腫003- VAC(CPA 1200mg/m²)療法**
 対象疾患: **横紋筋肉腫**
 臨床試験登録: **なし**
 診療科: **整形外科**
 登録日: **2015.3.31**

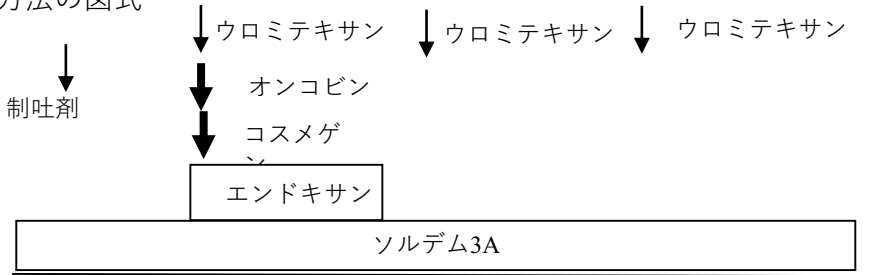
a) 投与薬剤名と投与量、投与方法
 薬剤名 量 投与方法
 Day1、アプレピタント125mg
 Day2・3、アプレピタント80mg

- Day 0 薬剤1 ソルデム3A 1000mL + メイロン40mL 12時間かけて点滴
- Day 1 薬剤1 ソルデム3A 1000mL + メイロン40mL 12時間かけて点滴
 薬剤2 アロキシ注+デキサト9.9mg + 生食 100mlを 15分で点滴
 薬剤3 オンコビン 1.5mg/m²を生食20mLで溶解し側管から静注
 薬剤4 コスメゲン 0.045mg/kgを注射用水で溶解し生食で希釈 (Total 10mL)、静注
 (1バイアルにつき1.1mLの注射用水で溶解する)
 薬剤5 エンドキサン 1200mg/m²を生食500mlに溶解し120分で点滴
 薬剤6 ウロミテキサン 480mg/m²を生食に溶解しエンドキサンと同時に静注
 薬剤7 ソルデム3A 1000mL + メイロン40mL 12時間かけて点滴
 薬剤8 ウロミテキサン 480mg/m²を生食に溶解しエンドキサン投与4時間後に静注
 薬剤9 ウロミテキサン 480mg/m²を生食に溶解しエンドキサン投与8時間後に静注

- Day 8.15 薬剤1 生食 100mlにて血管確保
 薬剤2 オンコビン 1.5mg/m²を生食20mLで溶解し側管から静注

<注意事項>
 オンコビンの最大投与量は2mg/day。コスメゲンの最大投与量は2.5mg/day。
 投与前日からメイロン入りの輸液開始
 エンドキサン投与日は都度検尿
 放射線療法併用時はコスメゲンを投与しない。

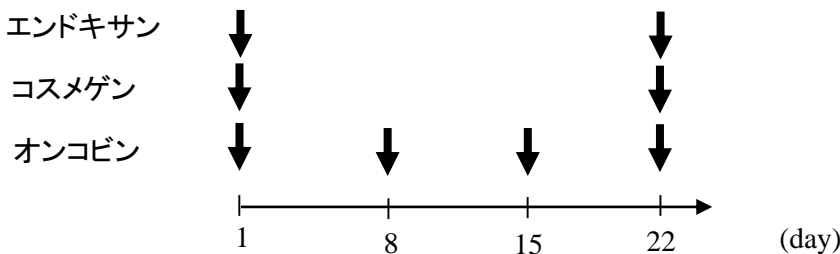
b) 投与方法の図式



c) 投与スケジュール

1コース3週

d) 投与スケジュールの図式



癌化学療法プロトコル用紙

2020.11.19

プロトコル名 肉腫-005 ドキソルビシン
 対象疾患 肉腫
 臨床試験登録 なし ありPI, PII, PIII, PIV
 診療科 がん化学療法科
 登録日・登録者 2020.11.19

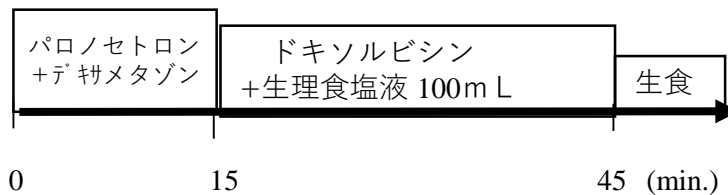
嘔気・嘔吐リスク
高

a) 投与薬剤名と投与量、投与方法

薬剤名	量	投与方法
薬剤1	パロノセトロン0.75 mg + デキサート 9.9 mg	15分かけて点滴
薬剤2	ドキソルビシン 75 mg/m ² + 生理食塩液 100 mL	30分かけて点滴
薬剤3	生食100 mL	全開で点滴

必要に応じてアプレピタントを考慮

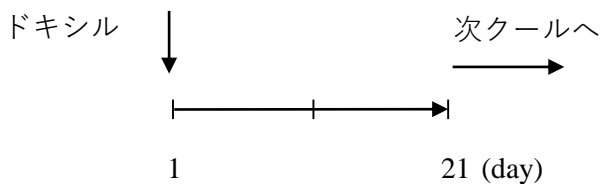
b) 投与方法の図式



c) 投与スケジュール

3週毎投薬

d) 投与スケジュールの図式



癌化学療法プロトコール用紙^{2009.08.29}

プロトコール名 皮-1セロイク (IL-2療法)

嘔気・嘔吐リスク

最小

対象疾患 血管肉腫 (悪性血管内皮細胞腫)

臨床試験登録 なし

診療科 皮膚科

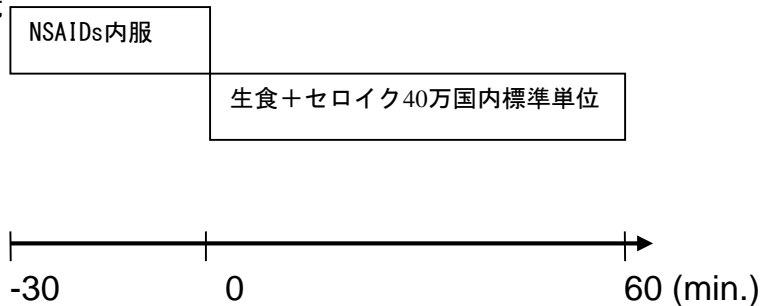
登録日 平成21年8月29日

a) 投与薬剤名と投与量、投与方法
薬剤名 量 投与方法
前投薬 NSAIDs (ボルタレン、ロキソニンなど) 内服

薬剤1 生食100ml 血管確保 5分かけて点滴

薬剤2 生食100ml+セロイク40万国内標準単位/body60分かけて点滴

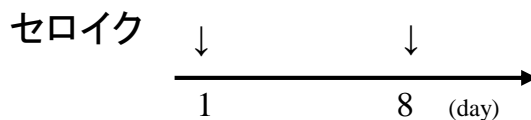
b) 投与方法の図式



c) 投与スケジュール

毎週投与

d) 投与スケジュールの図式



癌化学療法プロトコル用紙

2010.06.18

プロトコル名 皮膚-003 レミケード (day1~day98)
対象疾患 乾癬
臨床試験登録 なし ありPI, PII, PIII, PIV
診療科 皮膚科
登録日 平成22年6月18日

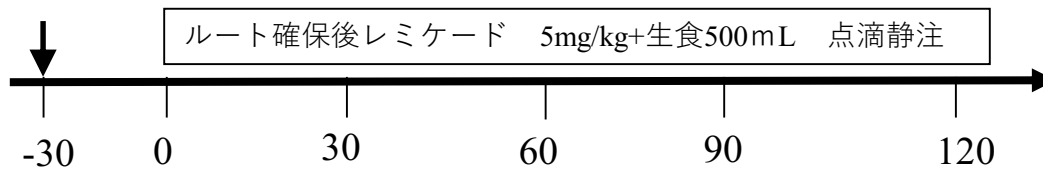
嘔気・嘔吐リスク
最小

a) 投与薬剤名 投与量 投与方法

Day1

薬剤1	レスタミン錠 1錠 (10mg)	点滴開始約30分前に内服
薬剤2	生食 100mL	血管確保
薬剤3	レミケード5mg/kg+生食 500mL	2時間以上かけて点滴

b) 投与方法の図式

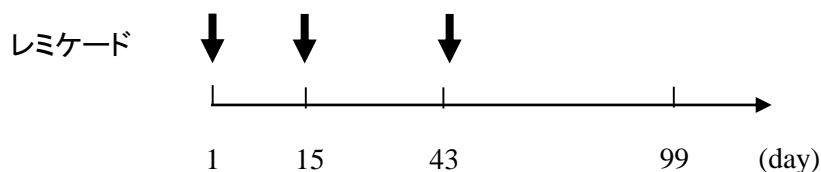


投与速度

0~15分	20mL/hr	バイタルチェック (体温、血圧、脈拍数)	投与直前
15~30分	40mL/hr		15分後
30~45分	80mL/hr		15分後
45~60分	160mL/hr		15分後
60~90分	300mL/hr		15分後
90~120分	500mL/hr		投与終了後 60分後 投与終了後 120分後

c) 投与スケジュール 初回投与後、2週、6週に投与

d) 投与スケジュールの図式



癌化学療法プロトコル用紙

2010.06.18

プロトコル名 皮膚-004a レミケード5mg/kg (day99~)
対象疾患 乾癬
臨床試験登録 なし ありPI, PII, PIII, PIV
診療科 皮膚科
登録日 平成22年6月18日

嘔気・嘔吐リスク
最小

改訂 平成28年5月8日, 平成28年6月22日

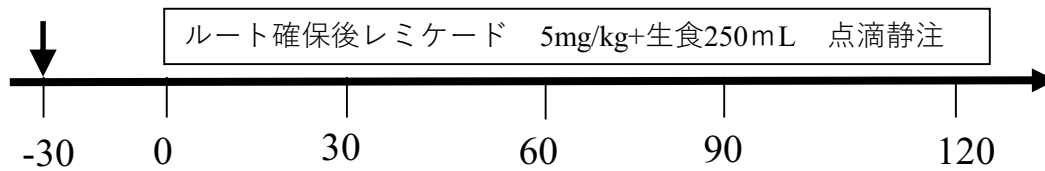
a) 投与薬剤名 投与量 投与方法

Day1

薬剤1	レスタミン錠 1錠 (10mg)	点滴開始約30分前に内服
薬剤2	生食 100mL	血管確保
薬剤3	レミケード5mg/kg+生食 250mL	2時間かけて点滴
薬剤4	生食 100mL	経過観察

なお薬剤3は、投与時反応発現ない場合に限り、総投与回数6回目以降は投与時間1時間に短縮が可能

b) 投与方法の図式



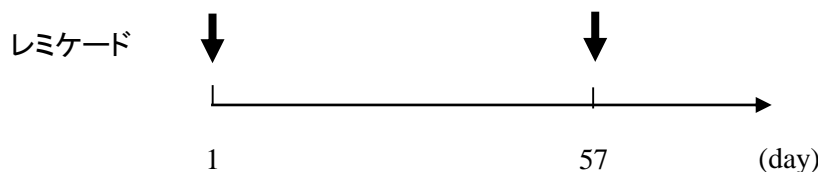
投与速度

(総投与回数 5回目まで 2時間投与)	0~15分 50mL/hr	バイタルチェック (体温、血圧、脈拍数)	投与直前
	15~30分 100mL/hr		15分後
	30~60分 150mL/hr		15分後
	60~120分 250mL/hr		30分後
			投与終了後 30分後

(総投与回数 6回目以降、 1時間投与)	0~60分 250mL/hr	バイタルチェック (体温、血圧、脈拍数)	投与直前
			60分後
			投与終了後 30分後

c) 投与スケジュール 8週間隔で投与

d) 投与スケジュールの図式



癌化学療法プロトコル用紙

2010.06.18

プロトコル名 皮膚-004b レミケード10mg/kg (day99~)
対象疾患 乾癬
臨床試験登録 なし ありPI, PII, PIII, PIV
診療科 皮膚科
登録日 平成22年6月18日

嘔気・嘔吐リスク
最小

改訂 平成28年5月8日, 平成28年6月22日

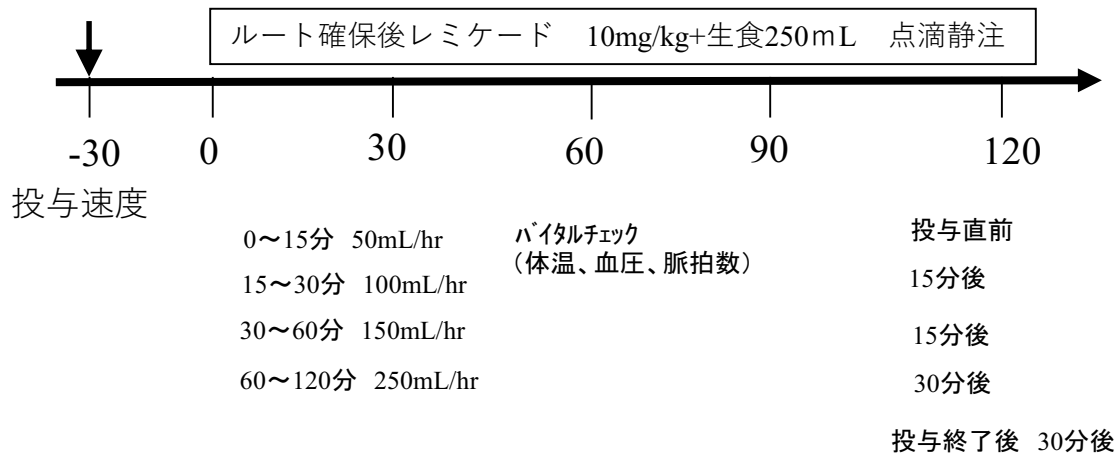
a) 投与薬剤名 投与量 投与方法

Day1

薬剤1	レスタミン錠 1錠 (10mg)	点滴開始約30分前に内服
薬剤2	生食 100mL	血管確保
薬剤3	レミケード10mg/kg+生食 250mL	2時間かけて点滴
薬剤4	生食 100mL	経過観察

なお薬剤3は、投与時反応発現ない場合に限り、総投与回数6回目以降は投与時間1時間に短縮が可能

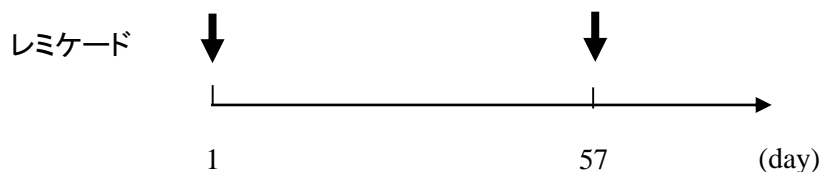
b) 投与方法の図式



c) 投与スケジュール

1回の体重1kg当たりの投与量の上限は、8週間の間隔であれば10mg
投与間隔を短縮した場合であれば6mgとする。また、最短の投与間隔は4週間とする。

d) 投与スケジュールの図式



化学療法プロトコール用紙

2011.2.13

プロトコール名
対象疾患
臨床試験登録
診療科
登録日

皮-005 DAV-feron療法
悪性黒色腫
なし あり PI, PII, PIII, PIV
皮膚科
平成23年2月13日
改訂 2017.01.10

嘔気・嘔吐リスク

高

a) 投与薬剤名と投与量、投与方法

薬剤1 投与30分前に アプレピタン 内服

薬剤2 5HT3拮抗薬+テキサト 9.9mg (Day1のみ、Day2~5まで 6.6mg) 15分で点滴静注

薬剤3 (Day1のみ) オンコビン 1 mg/body + 生食10 ml 静注

薬剤3' (Day2,4のみ) ニドラン 50 mg/body + 注射用水10 ml 静注

薬剤4 (Day1) ダカルバジン 100 mg/body + 生食100ml 1時間で点滴静注

薬剤4' (Day2,3,4,5) ダカルバジン 200 mg/body + 生食100ml 1時間で点滴静注

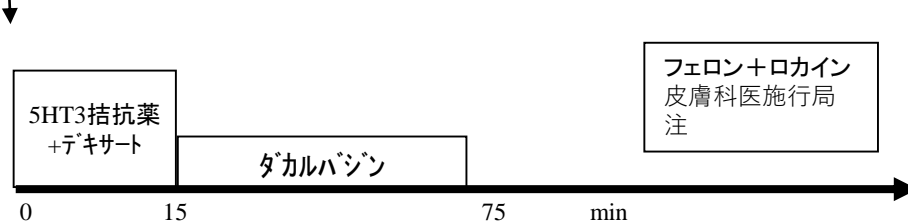
なお (Day1,2,3,4,5) フェロン(300万単位) + ロカイン 原発巣周囲 皮膚科医施行局注

b) 投与方法の図式

Day1.2.4 アプレピタン



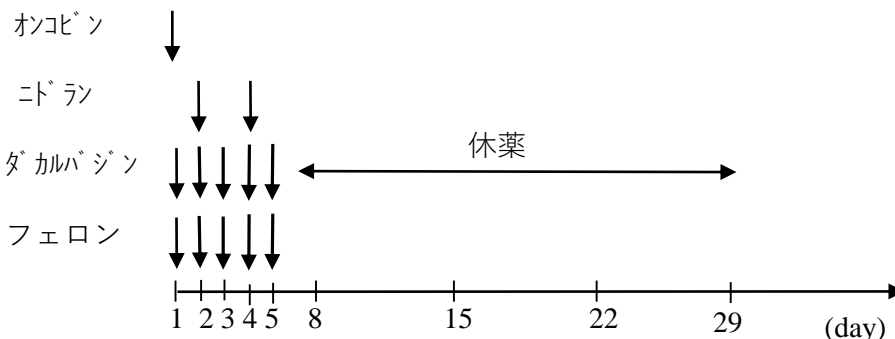
Day3.5



c) 投与スケジュール

1クール5日間、4-6週間休薬

d) 投与スケジュールの図式



プロトコール名 皮-009 オプジーボ
 対象疾患 根治切除不能な悪性黒色腫（既治療歴あり）
 臨床試験登録 なし あり PI, PII, PIII, PIV
 診療科 皮膚科
 登録日 2014.09.09
 改定 2018.11.01

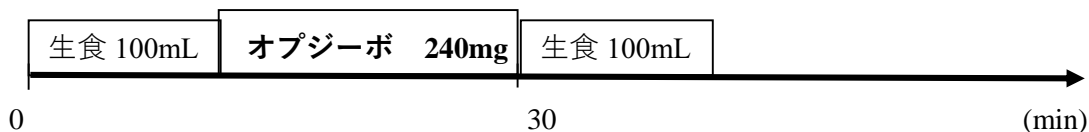
嘔気・嘔吐リスク

最小

a) 投与薬剤名と投与量、投与方法

薬剤名	量	投与方法
薬剤1 生食	100mL	血管確保用
薬剤2 オプジーボ	240mg	生食100mLに混注し、30分で点滴 (0.22 μ mのインラインフィルターを使用)
薬剤3 生食	100mL	ゆっくり点滴静注

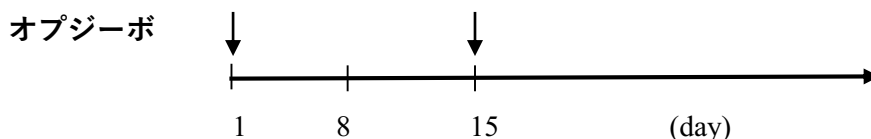
b) 投与方法の図式



c) 投与スケジュール

2週間間隔 1コース2週間

d) 投与スケジュールの図式



プロトコール名 皮-012 ポテリジオ

対象疾患 再発又は難治性のCCR4陽性の皮膚T細胞性リンパ腫

臨床試験登録 なし あり PI, PII, PIII, PIV

診療科 皮膚科

登録日 2015.04.10

改訂 2016.05.13

嘔気・嘔吐リスク

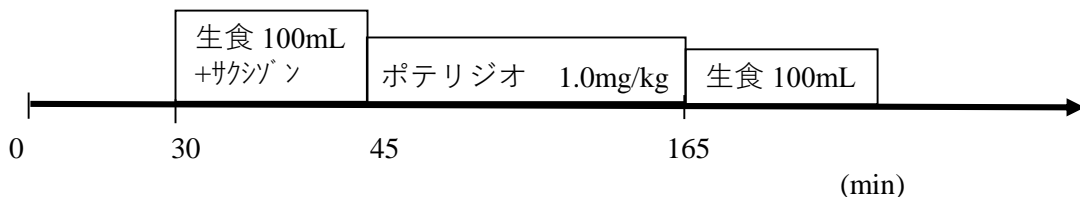
最小

a) 投与薬剤名と投与量、投与方法

薬剤名	量	投与方法
薬剤1	カロナール錠 (200)	2錠、レスタミン錠 3錠 投与開始30分前に内服
薬剤2	サクシゾン注射用100mg+生食100mL	混注し、30分で点滴
薬剤3	ポテリジオ 1.0mg/kg	生食250mL (Total 250mL)に混注し、120分で点滴
薬剤4	生食 100mL	ルートキープで 初回60分経過観察、2回目以降は30分経過観察

b) 投与方法の図式

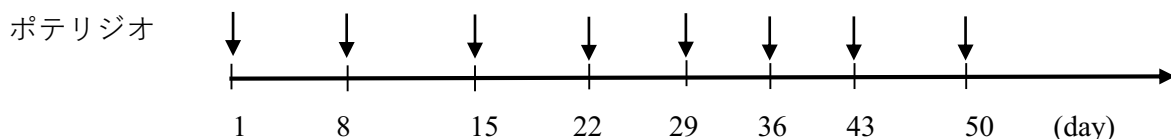
カロナール錠
レスタミン錠



c) 投与スケジュール

毎週投与 8回投与

d) 投与スケジュールの図式



プロトコール名 皮-014 ヤーボイ
 対象疾患 根治切除不能な悪性黒色腫
 臨床試験登録 なし あり PI, PII, PIII, PIV
 診療科 皮膚科
 登録日 2015.09.15

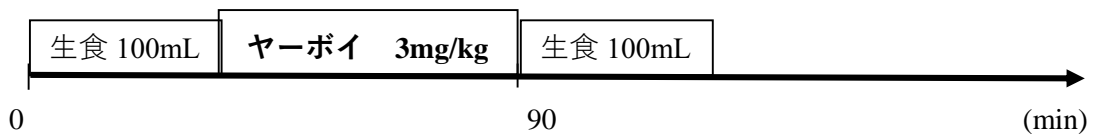
嘔気・嘔吐リスク

最小

a) 投与薬剤名と投与量、投与方法

薬剤名	量	投与方法
薬剤1 生食	100mL	血管確保用
薬剤2 ヤーボイ	3mg/kg	生食100mLに混注し、90分で点滴 (0.22 μ mのインラインフィルターを使用)
薬剤3 生食	100mL	ゆっくり点滴静注

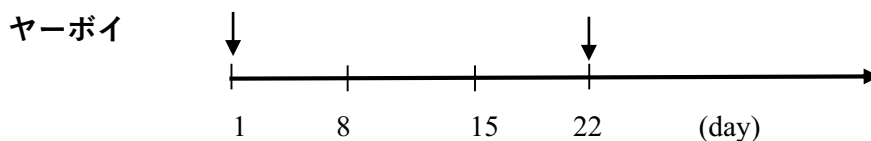
b) 投与方法の図式



c) 投与スケジュール

3週間間隔 4回点滴静注

d) 投与スケジュールの図式



化学療法プロトコル用紙

2017.1.5

プロトコル名 皮-017 DTIC-feron療法
対象疾患 悪性黒色腫
臨床試験登録 なし あり PI, PII, PIII, PIV
診療科 皮膚科
登録日 2017.1.10

嘔気・嘔吐リスク

高

a) 投与薬剤名と投与量、投与方法

Day1,2,3,4,5

薬剤1 投与30分前に アプレピタント 内服

薬剤2 5HT3拮抗薬+テキサト9.9mg (Day1のみ、Day2~5まで 6.6mg) 15分で点滴静注

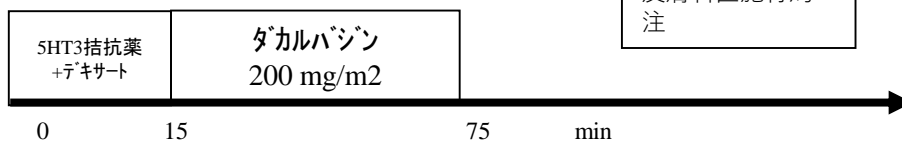
薬剤3 ダカルバジン 200 mg/m²生食100ml 1時間で点滴静注

なお (Day1,2,3,4,5)フェロン(300万単位) + ロカイン 原発巣周囲 皮膚科医施行局注

b) 投与方法の図式

Day1~5

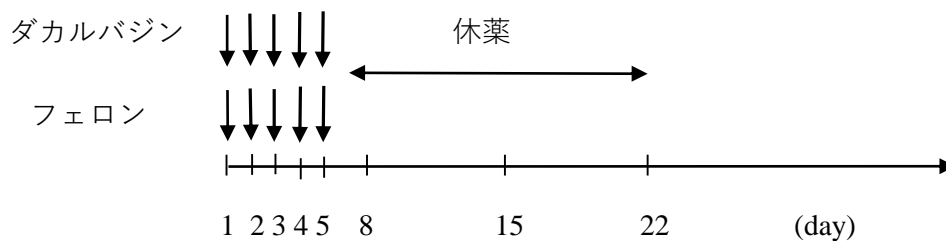
アプレピタント
↓



c) 投与スケジュール

1クール5日間、 21日間毎

d) 投与スケジュールの図式



癌化学療法プロトコール用紙

2017.3.14

プロトコール名 皮-018a (3週間)キイトルーダ

対象疾患 悪性黒色腫

臨床試験登録 なし あり PI, PII, PIII, PIV

診療科 皮膚科

登録日・登録者 2017.3.14

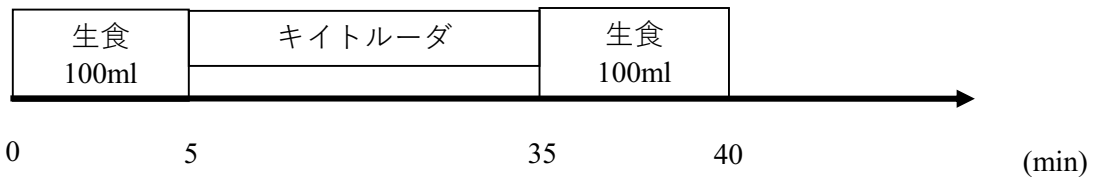
改訂 2019.1.17

改訂 2020.9.1

a) 投与薬剤名と投与量、投与方法

薬剤名	量	投与方法
薬剤1	<u>生食 100mL</u>	<u>血管確保用</u>
薬剤2	<u>キイトルーダ 200mg</u>	<u>生食 100mL に混注し、30分で点滴 インラインフィルター を用いて投与</u>
薬剤3	<u>生食 100mL</u>	<u>全開</u>

b) 投与方法の図式

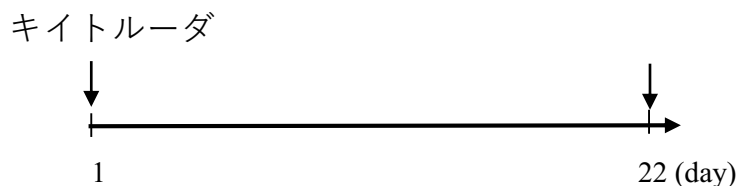


c) 投与スケジュール

3週間隔で投与 1コース3週

術後補助療法の場合は、投与期間は12カ月までとする

d) 投与スケジュールの図式



Ref) Robert C et al. N Engl J Med. 2015 Jun 25;372(26):2521-32.

Ref) Robert C et al. Lancet. 2014 Sep 20;384(9948):1109-17.

癌化学療法プロトコール用紙

2017.3.14

プロトコール名 皮-018b (6週間)キイトルーダ

対象疾患 悪性黒色腫

臨床試験登録 なし あり PI, PII, PIII, PIV

診療科 皮膚科

登録日・登録者 2017.3.14

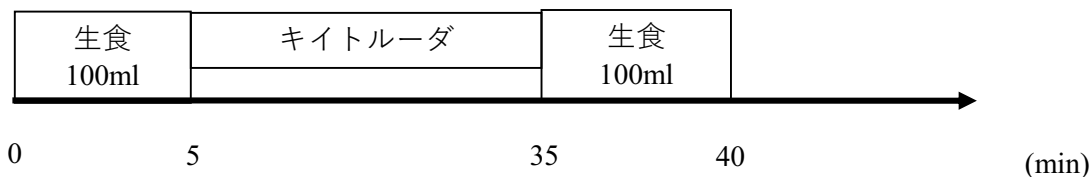
改訂 2019.1.17

改訂 2020.9.1

a) 投与薬剤名と投与量、投与方法

薬剤名	量	投与方法
薬剤1	<u>生食 100mL</u>	<u>血管確保用</u>
薬剤2	<u>キイトルーダ 400mg</u>	<u>生食 100mL に混注し、30分で点滴</u> <u>インラインフィルター を用いて投与</u>
薬剤3	<u>生食 100mL</u>	<u>全開</u>

b) 投与方法の図式

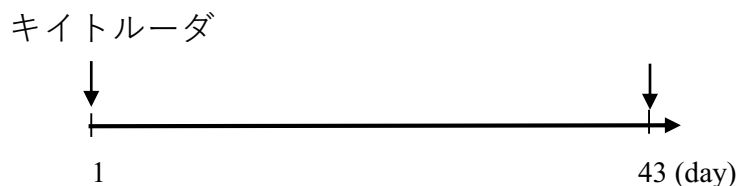


c) 投与スケジュール

6週間隔で投与 1コース6週

術後補助療法の場合は、投与期間は12カ月までとする

d) 投与スケジュールの図式



Ref) Robert C et al. N Engl J Med. 2015 Jun 25;372(26):2521-32.

Ref) Robert C et al. Lancet. 2014 Sep 20;384(9948):1109-17.

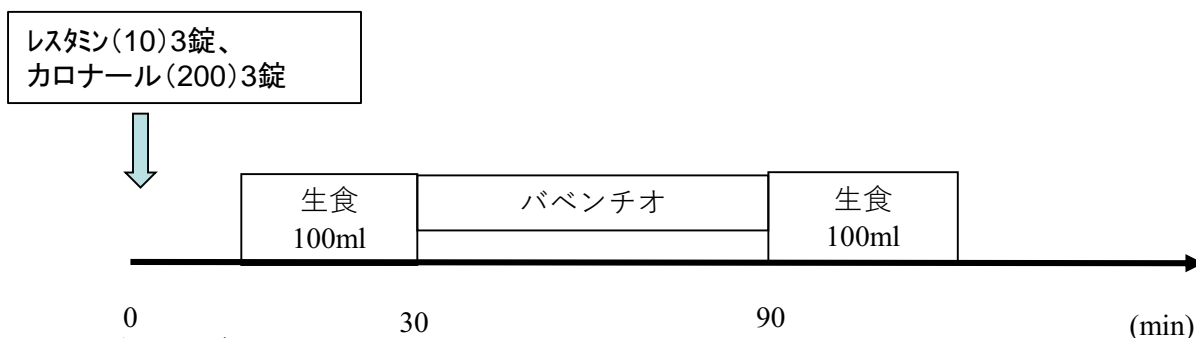
癌化学療法プロトコール用紙

プロトコール名 皮-019 バベンチオ
 対象疾患 根治切除不能なメルケル細胞癌
 臨床試験登録 (なし) あり PI, PII, PIII, PIV
 診療科 皮膚科
 登録日 2018.7.25

a) 投与薬剤名と投与量、投与方法

薬剤名	量	投与方法
バベンチオ	投与30分前にレスタミン (10) 3錠、カロナール (200) 3錠内服	
薬剤1	生食 100mL	血管確保用
薬剤2	バベンチオ 10mg/kg 生食 250mL に混注し、60分で点滴	インラインフィルターを用いて投与
薬剤3	生食 100mL	全開

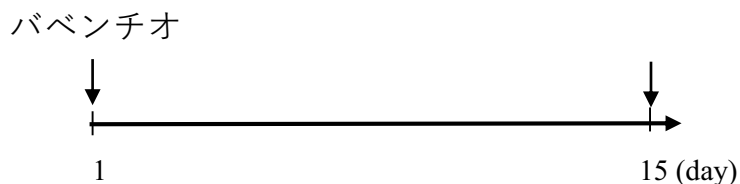
b) 投与方法の図式



c) 投与スケジュール

2週間隔で投与 1コース2週

d) 投与スケジュールの図式



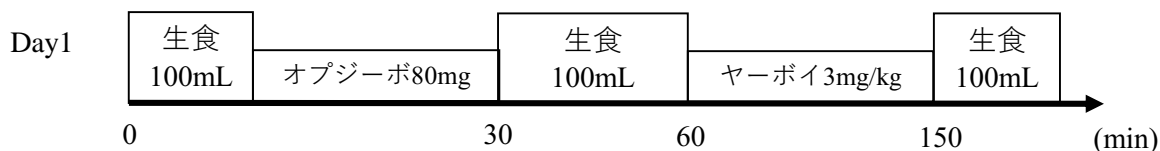
癌化学療法プロトコル用紙 2018.6.5

プロトコル名 皮-020a オプジーボ+ヤーボイ (1~4回目)
 対象疾患 化学療法未治療の根治切除不能な悪性黒色腫
 臨床試験登録 (なし) あり PI, PII, PIII, PIV
 診療科 皮膚科
 登録日 2018.6.5
2018.11.01
2020.1.29

a) 投与薬剤名と投与量、投与方法

薬剤名	量	投与方法
薬剤1	生食 100mL	血管確保用
薬剤2	オプジーボ 80mg を生食 32mL に希釈し、Total 40mL	30分で点滴 インラインフィルターを用いて投与
薬剤3	生食 100mL	30分 経過観察
薬剤4	ヤーボイ 3mg/kg を生食 100mL に希釈し(Total 100mL)、90分で点滴 (1~4mg/mLの濃度に希釈し、投与する)	インラインフィルターを用いて投与
薬剤5	生食 100mL	全開

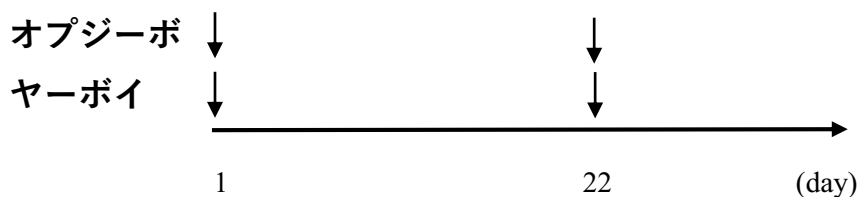
b) 投与方法の図式



c) 投与スケジュール

1 コース3週 4回点滴静注

d) 投与スケジュールの図式



癌化学療法プロトコル用紙 2018.6.5

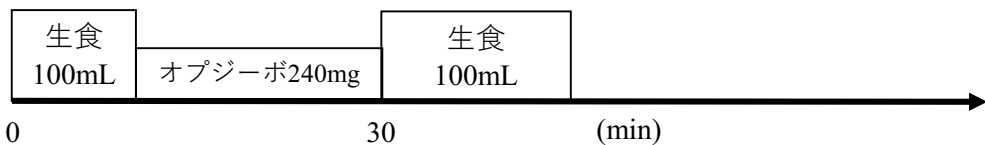
プロトコル名 皮-020b オプジーボ (5回目以降)
 対象疾患 化学療法未治療の根治切除不能な悪性黒色腫
 臨床試験登録 (なし) あり PI, PII, PIII, PIV
 診療科 皮膚科
 登録日 2018.6.5
 2018.11.01

a) 投与薬剤名と投与量、投与方法

薬剤名	量	投与方法
薬剤1	生食 100mL	血管確保用
薬剤2	オプジーボ 240mg を生食 100mL に希釈し、	30分で点滴
		インラインフィルターを用いて投与
薬剤3	生食 100mL	全開

b) 投与方法の図式

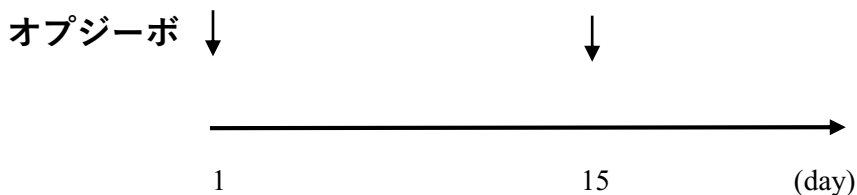
Day1



c) 投与スケジュール

1 コース2週

d) 投与スケジュールの図式



癌化学療法プロトコール用紙

2018.8.30

プロトコール名 皮-021 オブジーボ
対象疾患 悪性黒色腫 (術後補助療法)
臨床試験登録 (なし) あり PI, PII, PIII, PIV
診療科 がん化学療法科
登録日 2018.8.30

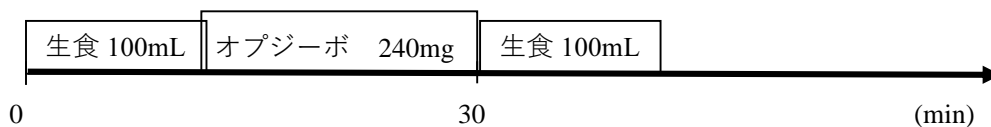
嘔気・嘔吐リスク

最小

a) 投与薬剤名と投与量、投与方法

薬剤名	量	投与方法
薬剤1 生食	100mL	血管確保用
薬剤2 オブジーボ	240mg	生食100mLに混注し、30分で点滴 (0.22 μ mのインラインフィルターを使用)
薬剤3 生食	100mL	全開

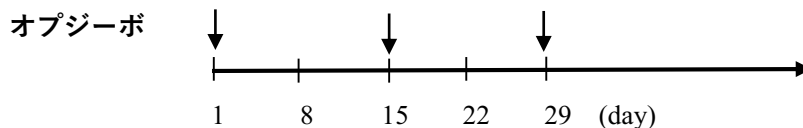
b) 投与方法の図式



c) 投与スケジュール

2週間間隔
なお、最長で1年間 もしくは 52回投与まで

d) 投与スケジュールの図式



癌化学療法プロトコール用紙 2019.02.26

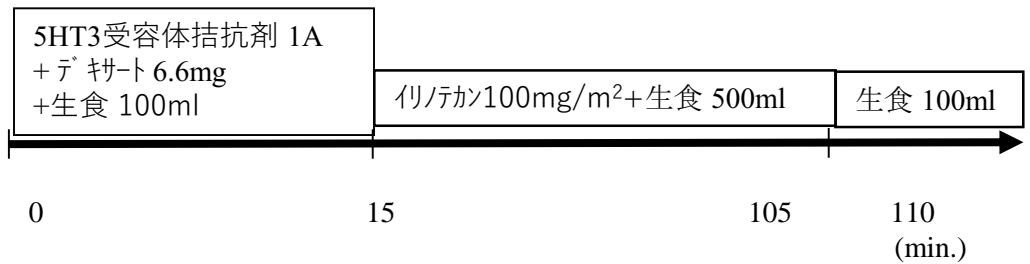
プロトコール名 皮-022 Weekly イリノテカン(100)
 対象疾患 有棘細胞癌
 臨床試験登録 なし ありPI, PII, PIII, PIV
 診療科 皮膚科
 登録日 2019.2.26

嘔気・嘔吐リスク
中

a) 投与薬剤名と投与量、投与方法

	a)	薬剤名	量	投与方法
薬剤1	5HT3受容体拮抗剤 1A + テキサト 6.6mg	+ 生食 100 ml	15分で点滴	
薬剤2	イリノテカン 100 mg/m ²	+ 生食 500 ml	90分で点滴	
薬剤3	生食	100ml	全開	

b) 投与方法の図式



c) 投与スケジュール

3週投与1週休薬
 4週1コース

d) 投与スケジュールの図式

